

2024年度 公立はこだて未来大学 市民公開講座

セカイの ミカタの とらえ方

●講師

島影圭佑

情報アーキテクチャ学科 准教授

**Design as
Ars Vivendi**

9/21±

10:30～12:00

●会場

函館コミュニティプラザ
Gスクエア
多目的ホール
函館市本町 24-1
シエスタ4階

カメラ

文字 → OTON GLASS → 音声

●講師

渡邊拓貴

情報アーキテクチャ学科 准教授

**ヒアラブル
デバイスが
拓く未来**

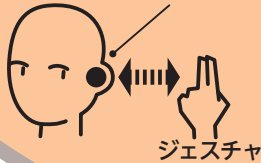
10/26±

10:30～11:30

●会場

公立はこだて未来大学
494 (C&D) 教室
函館市亀田中野町 116-2

ヒアラブルデバイス



ジェスチャ



コウモリの
超音波センシング

応用

10/5±

10:30～12:00

●会場

函館コミュニティプラザ
Gスクエア
多目的ホール
函館市本町 24-1
シエスタ4階

●講師

山田恭史

複雑系知能学科 准教授

**生物ナビゲーション入門
—動物たちの
“見る”世界—**

※各回とも
定員：20名
参加費：無料
要事前申し込み

お問い合わせ：公立はこだて未来大学 社会連携センター

メール：col@fun.ac.jp

電話：0138-34-6549 (平日 9:00 ～ 17:00)

お申込みは先着順になります。

参加申し込みはこちらから



2024年度 公立はこだて未来大学 市民公開講座 ～セカイのミカタのとらえ方～

IT 技術を使った様々なミカタで
新しいセカイを感じてみませんか？



講師紹介



島影圭佑(しまかげ けいすけ)
情報アーキテクチャ学科 准教授

デザイン(インクルーシブデザイン、スペキュラティヴデザイン、デザインアティビズム、デザインリサーチ)の研究に従事

私はデザインを「生きるための技法」と位置づけ、様々なプロジェクトに取り組んできました。本講演では自身の主要なプロジェクトである、文字を読み上げるメガネ〈OTON GLASS〉、当事者兼つくり手による小さな生態系〈FabBiotope〉、多様な当事者兼つくり手の生きるための技法をワークショップ、公開インタビュー、上映会などを通じて社会にひらく展覧会「“現実”の自給自足展」などを紹介します。



山田恭史(やまだ やすふみ)
複雑系知能学科 准教授

動物行動学、エコーロケーション、バイオミメティクス(生物模倣ロボット)の研究に従事

我々ヒトは、主に視覚からの情報を頼りに周囲空間を認識し、目的地へたどり着くことができます。一方で生物の中には、生息環境に応じた合理的な進化を遂げた結果、ユニークな感覚知覚能力を頼りに厳しい野生環境を生き抜く者たちがいます。本講座では、彼らのユニークなナビゲーション行動を紹介すると共に、“音で世界を見る”コウモリの超音波ナビゲーションについても紹介します。



渡邊拓貴(わたなべ ひろき)
情報アーキテクチャ学科 准教授

ウェアラブルコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、ヒューマンコンピュータインタラクション、行動認識の研究に従事

近年、イヤホン型デバイス(ヒアラブルデバイス)が急速に普及し、常時装着する環境が整いつつあります。このような環境では、ヒアラブルデバイスによって人本来の聴力を拡張し、生活の質を向上できる可能性があります。一方で、常時装着により身体に思わぬ悪影響を及ぼす可能性もあります。本講演では、ヒアラブルデバイスの活用方法と常時装着環境における脅威・対策について、これまでの研究事例をご紹介します。